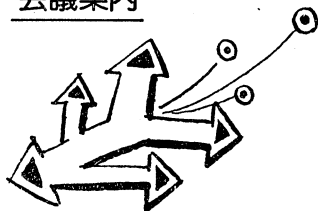


会議案内



各会議末のコードは整理番号です(*印は既掲載分)。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手70円を同封のうえ、請求ください。(国内連絡先が記載されている場合は除く。)

1. 開催日 2. 場所 3. 連絡 問合せ先 4. その他

国際会議

ISCA 86—13th Int'l. Symposium on Computer Architecture (*008)

- 1986年6月2日(月)～5日(木)
- サンシャイン・プリンスホテル(東京・池袋)
- (財)日本学会事務センター Tel. 03 (817) 5831
- 登録費: 会員 会員外 学生
チュートリアル 40,000円 50,000円 —
シンポジウム 55,000円 75,000円 15,000円
両方に参加 77,500円 97,500円 —

SICOB AUTOMNE 1986 (031)

- September 15-20, 1986
- CNIT Exhibition Center, Paris La Défense, France
- フランス見本市協会 Tel. 03 (405) 0171

国際ファジィ・システム学会第2回会議 (032)

- 1987年7月20日(月)～25日(土)
- 上智大学(予定)
- IFSA 日本支部, (社)計測自動制御学会
Tel. 03 (814) 4121
- 7月17日～18日に「工業と経営へのファジィ・システムの応用」講習会を開きます。

国内会議

Computer Graphics Osaka '86 シンポジウム

- 昭和61年6月4日(水)～5日(金)
- 大林ビル会議室(大阪市東区京橋 3-37)
- (社)日本能率協会関西事業本部 Tel. 06 (261) 7151
- 参加費(10講座): 1講座単位 14,000円(会員外16,000円), 学生 4,000円
ワークショップ(5日～7日, 3,000円/日) および展示会(4日～7日, 1,500円)が OMM ビルで開かれます。

日本医療情報学会 第1回「パソコン簡易言語研究会」

- 昭和61年6月21日(土) 14:00～17:00
- 順天堂大学医学部新館6階 階段教室(東京都文京区本郷 2-1-1)
- (財)医療情報システム開発センター 山田恒夫
Tel. 03 (586) 6321
- 参加費: 2,000円

セミナー「人工知能とFA」

- 昭和61年9月24日(水)～25日(木)
- 光陽社ビルディング2階講堂(東京都荒川区東日暮里 5-48-5)
- (社)精密工学会 Tel. 03 (362) 1979
- 参加費: 20,000円(会員外 32,000円), 学生会員は無料(資料なし)。
申込締切り: 9月17日(水)

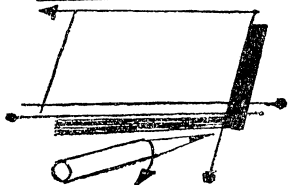
NICOGRAPH '86

- 昭和61年11月11日(火)～14日(金)
- サンシャインシティ(東京・池袋)
- 日本経済新聞社, 日本コンピュータ・グラフィックス協議会
- 展示会: 11日～14日(1,000円)
基調講演 & フィルムショー: 11日(20,000円)
セミナー(12講座): 12日～13日(20,000円/講座)
論文発表: 14日(無料)

第7回 数理計画シンポジウム

- 昭和61年11月6日(木)～7日(金)
- 名古屋国際センター
- 南山大学経営学部情報管理学科 沢木勝茂
Tel. 052 (832) 3111(内 430)
- 参加費: 5,000円(学生 3,000円)
懇親会費: 5,000円

雑報



○大学情報関係教官募集

群馬大学工学部情報工学科

募集人員 助教授または助手 1名

応募資格 研究業績があり、博士の学位を有するか近く取得の見込がある36歳以下の方。
着任時期 昭和61年度となるべく早い時期
募集締切 昭和61年6月30日(月)
応募先 群馬大学工学部情報工学科 五十嵐善英
Tel. 0277 (22) 3181

広島大学総合情報処理センター

募集人員 助手 1名
 専門分野 情報科学, 情報工学
 職務内容 センターの業務ならびに研究開発
 応募資格 修士課程修了以上またはそれに準ずる者(若い人を優先します)
 着任時期 昭和61年8月1日(予定)
 募集締切 昭和61年6月15日(日)
 応募先 広島大学総合情報処理センター長
 菅原正博 Tel. 082 (241) 1221 (内 3663)

琉球大学工学部電子・情報工学科

募集人員 教授 2名
 専門分野 電子・情報学基礎, 電子系統工学
 応募資格 博士の学位を有し, 優れた研究実績のある年齢57歳から63歳までの方。
 採用予定 昭和61年10月1日
 募集締切 昭和61年7月31日(木)
 応募先 琉球大学工学部長 山里栄昭
 問合せ先 電子・情報工学科 鉢嶺元助
 Tel. 09889 (5) 2221 (内 3260)

九州工業大学情報工学部

(昭和61年10月1日学部開設, 昭和62年4月1日学生受入れ予定)

募集人員 (教授/助教授)	採用時期	担当分野
知能情報工学科 各8名	62年~65年各4月	情報, 電子, 通信, 電気
電子情報工学科 各8名	同 上	同 上
共通講座 各2名	62年~63年各4月	数学, 物理, コンピュータソフトウェア
一般教育等 各5名	同 上	数学, 物理, 化学, 国語学, 社会学, 経営経済学, 英語, 独語, 保健体育
募集締切 問合せ先	昭和61年6月5日(木) 〒804 北九州市戸畑区仙水町 1-1 九州工業大学情報工学部創設準備室 Tel. 093 (871) 1931 (内 616)	

応募用紙の請求は, 郵便切手240円を貼付した28cm×22cm程度の返信用封筒を同封のこと。

横浜市立大学情報処理教育センター

募集人員 助教授または専任講師 1名
 担当科目 電子計算論, 情報社会学 (情報と社会にかかわるコンピュータを利用した研究)
 応募資格 助教授あるいは専任講師の資格, 業績をもつ40歳台前半までの方。
 採用予定 昭和61年10月1日
 応募書類締切 5月31日(土)
 問合せ先 横浜市立大学教授 越智 昇
 Tel. 045(782)5791 (夜間, 自宅)

○昭和61年度技術士第1次試験

申込期間 昭和61年5月15日(木)~28日(水)
 試験期日 昭和61年10月12日(日)
 (札幌, 東京, 大阪, 福岡)
 受験資格 年齢, 学歴その他制限は一切ありません。
 受験手数料 9,000円
 合格発表 昭和61年12月下旬
 問合せ先 (社)日本技術士会試験センター
 Tel. 03 (591) 7110

○第2回 山内賞が決定

山内二郎先生を記念して一昨年1月に設立された山内記念会(会長 森口繁一)の主要な事業の一つである山内賞が, 同記念会理事会でつぎのとおり決定されました。

なお当分の間は, 業績賞はプログラミング・シンポジウムの過去の発表論文から, 奨励賞は同シンポジウムの最新の発表論文から, それぞれ選定されます。また, 受賞の方々には表彰状と副賞が贈られます。

山内業績賞(1)

清水辰次郎: “算術の問題を解くプログラム”(第2回プログラミング・シンポジウム発表論文)(第3回, 4回に続編)
 [推薦理由] この論文は自然言語(英語)で書かれた文章題, すなわち算術の応用問題を解釈し, 方程式を立てて解くことを, すべて計算機に自動的にやらせようという, 驚くほど野心的な高度の人工知能研究である。極めて限られた語彙と構文に限定したために成功したともいえるが, 当時の小型機でこれだけの成果を挙げたことは, 驚嘆に値する。

山内業績賞(2)

森口繁一: “常微分方程式の数値解法に関する三つの着想”(第4回プログラミング・シンポジウム発表論文)
 [推薦理由] この論文には, Henrici の理論の補充・拡張, 不安定性を含む算法に対する平滑子(フィルタ)の提唱, 丸め誤差解析に関する考察, の三つの着想が述べられている。いずれもその後その線に添う研究が進められ, 今では数値解析の常識となっている。また数値積分への応用例として, 台形公式が Simpson 公式よりも精度が高い場合があることを指摘している。これは後に二重指数積分公式に至る日本での一連の研究のきっかけになった。その独創性と発展性を高く評価すべきと思う。

山内奨励賞(創意の部)

根岸寛明・吉田哲三: “ドキュメンテーションエンジニアリングによるマニュアル作成”(第27回プログラミング・シンポジウム発表論文)

[推薦理由] 従来から一般ユーザにとって判り難いことでは定評のあるマニュアルの品質向上を図るため, マニュアルの不良原因を分析しその対策を体系的に実施していく, ドキュメンテーションエンジニアリングを提案し, 実際にこの方法によるマニュアル作成の普及・定着を進めている。

山内奨励賞(表現の部)

角田博保: “多層テキスト構造を持つ日本語エディタ”(第27回プログラミング・シンポジウム発表論文)

[推薦理由] ローマ字入力の入力層, かなのよみであるキー層, および最終結果としての漢字層, の三つの層から成るパーソナルな日本語エディタを設計し, 開発した。これらの三つのレベルに対して操作が可能なこのエディタにおいて, これらの関連を, 概念, 実現法, 使い勝手の各々の面について, 極めて判り易く説明し, 多くの聴衆の関心を集めた。

著者紹介



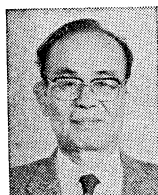
福村 晃夫 (正会員)

大正 14 年生。昭和 24 年名古屋大学工学部電気学科卒業。昭和 24 年同大学助手。その後講師、助教授を経て昭和 43 年教授。昭和 56 年同大学大型計算機センター長併任となって現在に至る。工学博士。音声、画像情報処理、知識情報処理等に興味をもつ。著書「オートマトン・形式言語理論と計算論」(岩波書店)他。電子通信学会、日本音響学会、日本 ME 学会、電気学会各会員。



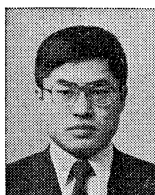
澤田 正方 (正会員)

昭和 8 年生。昭和 33 年東京大学工学部電気工学科卒業。同年日本国有鉄道入社。座席予約システム、新幹線情報管理システム、新幹線運転管理システム等の開発に従事。中央情報システム管理センタ所長。東京システム開発工事局長を歴任。昭和 60 年永楽電気(株)入社。昭和 58 年電子通信学会業績賞受賞。電気学会、電子通信学会各会員。



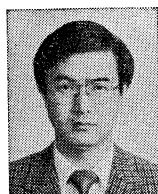
村田 健郎 (正会員)

1945 年東京大学工学部航空原動機学科卒業。1951 年東京大学理学部数学科卒業。東京大学工学部計測工学科助教授。(株)日立製作所中央研究所技師長を経て、現在、図書館情報大学図書館情報学部教授。理学博士。専門は線形数値計算法。主要著書「スーパーコンピュータ——科学技術計算への適用——」(共著)丸善、「線形代数と線形計算法序説」サイエンス社。



室 章治郎 (正会員)

昭和 26 年生。昭和 50 年京都大学工学部数理工学科卒業。昭和 55 年同大学院数理工学専攻博士課程修了。工学博士。同年同大学数理工学科助手となり、現在に至る。その間、昭和 55 年 6 月より 1 年間カナダ国ウォータールー大学客員研究助教授。データベース、情報伝送システムの性能評価、組合せ最適化の理論等に興味をもつ。電子通信学会、日本オペレーションズリサーチ学会、日本自動制御協会、IEEE、ACM 各会員。



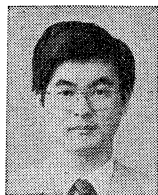
尾家 祐二 (正会員)

昭和 29 年生。昭和 53 年京都大学工学部数理工学科卒業。昭和 55 年同大学院数理工学専攻修士課程修了。同年日本電装(株)に入社。昭和 58 年佐世保工業高等専門学校電気工学科助手となる。現在、講師。通信方式の性能評価に関する研究に従事。電子通信学会、日本自動制御協会、IEEE 各会員。



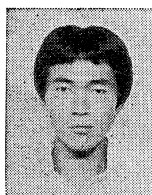
長谷川 利治 (正会員)

昭和 9 年生。昭和 32 年大阪大学工学部通信工学科卒業。昭和 34 年同大学院修士課程修了。昭和 37 年 Johns Hopkins 大より M.S. 修得。工学博士。昭和 38 年大阪大学工学部通信工学科助手。昭和 40 年京都大学工学部数理工学科助教授。昭和 47 年同教授となり、現在に至る。情報伝送および処理、多値論理および回路、道路交通管制システムなどの研究に従事。電子通信学会、日本自動制御協会、日本オペレーションズリサーチ学会、IEEE 各会員。



松方 純 (正会員)

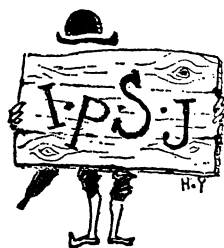
昭和 32 年生. 昭和 54 年東京大学教養学部基礎科学科卒業. 東京大学工学系研究科情報工学専門課程を経て, 昭和 59 年より東京大学大型計算機センター助手. 現在, 分散処理, 電子メール・ネットワークなどの研究に従事. 人工知能, プログラミング・システム, プログラム変換, オペレーティング・システム, コンピュータ・ネットワーク, 文書処理などに興味をもっている.



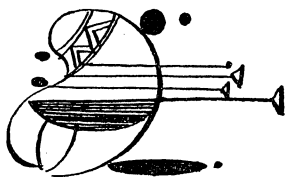
大淵 竜太郎 (正会員)

1958 年 9 月 20 日生れ. 1981 年 3 月上智大学理工学部電気・電子工学科卒業. 1983 年 3 月電気通信大学大学院計算機科学専攻修士課程修了.

1983 年 4 月より日本アイ・ビー・エム(株)サイエンスインスティテュート勤務. 論理回路の CAD, 高機能ディスプレイ/プリンタなどの研究・開発に従事. 興味の対象は, 並列計算機のアーキテクチャ, イメージ/グラフィクス処理のハードウェアアルゴリズムとアーキテクチャ, など. 電子通信学会, 日本ソフトウェア科学会, 各会員.



研究会報告



◇ 第 38 回 記号処理研究会 第 5 回プログラミング言語研究会 } 合同

{昭和 61 年 3 月 10 日(月), 於理化学研究所
レーザー棟会議室, 出席者 50 名}

(1) 日本語テキストにおけるパターンマッチング 手法の比較と改善

尹 志 熙, 高木利久, 牛島和夫 (九大・工)

[内容梗概]

日本語テキスト上でパターンマッチングを行うとき, シフトコードの存在や日本語文字のずれ読みなどを常に意識する必要がある, その操作は複雑になる. 英文テキスト用として有効性が知られているいくつかのパターンマッチングアルゴリズム (Knuth-Morris-Pratt, Boyer-Moore, Aho-Corasick, Expanded Boyer-Moore アルゴリズム) を日本語テキストに適用し, その効率を調べた. まず, 英文テキスト用のアルゴリズムを日本語テキストに適用する際の問題点について述べ, 次にその解決方法としてテキストを正規化したこと, 正規化テキスト上で 1 バイト単位のパターンマッチングを行う場合の各々のアルゴリズムの効率, 改善, 実用性の比較について報告した.

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(2) Ada における日本語テキスト処理パッケージの構築とその使用

松尾篤弥, 牛島和夫 (九大・工)

[内容梗概]

Ada は, 既定の文字型として日本語文字を使えず, 日本語処理が困難なため, 我が国におけるソフトウェア開発に Ada を使うことを躊躇させている. また, 1 バイトの英数字と 2 バイトの日本語文字が任意に混在する日本語テキストを処理するには多くの問題がある. そこで, Ada において日本語テキストを扱うことを可能にし, 更にその処理時に起こる時間を解決するパッケージを開発した.

ここで述べる方式は, 規格からの逸脱を極力避ける

という方針のもとに, 処理系には直接手を加えず日本語テキスト処理機能を実現した. なお, このパッケージは米国防総省が実施する検定を通った Ada 上で実現している.

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(3) 次第立て言語《小朱唇》の設計思想

水谷静夫 (東女大・文理)

[内容梗概]

語文系の計算機利用は, 資料調製にせよ理論検証にせよ, 連系操作が中核となる. 従来のプログラミング言語では概してその処方記述が余り楽でない. この点を考慮して, (国) 文科学士に気軽に使えるような, 教育用の日本語次第立て言語《小朱唇》を設計し, 昨学年来これによる授業もしている. 言語設計 (と処理系作成と) に当り特に留意した点は, 空連系が確実に扱えること, かなり複雑な型合せが簡潔に指図できること, 対象連系の姿にひたすら着目した処方が大綱から細部へと日本語で書けること等である. なお処理系作成は黒川利明氏に負い, LISP 1.9 で書いてある.

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(4) TAO における日本語文字列処理

杉村利明, 奥乃 博, 竹内郁雄 (NTT 通研)

[内容梗概]

Lisp マシン ELIS 上の言語 TAO における統合文字列処理について, 設計方針, 実現方法, 処理効率, 使用経験を述べた. 統合文字列処理は, 日本語文字と ASCII 文字の文字列処理を一つの枠組みに統合化し, 両者を区別なく自由に処理可能にした. このことによって, 既存のプログラムの日本語化が容易になり, 新たにプログラムを作る場合も, 従来と同じ方法で行えるようになった. また, 文字列処理の効率についても, 本処理がアプリケーションプログラム作りの重要な機能の一つであることから, 他の Lisp object の処理と同等な効率を実現した.

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(5) 日本 DEC の AI 製品における日本語化について

前田克典, 川合 進 (日本 DEC)

[内容梗概]

弊社の AI 関連製品 (VAX LISP, OPS5, C-Prolog, Quintus Prolog) は, 弊社の OS である VMS の日本語処理機能の使用により日本語の取り扱いが可

能である。本論文では、VMS がサポートする日本語処理機能の説明、各 AI 製品での日本語処理の特徴、及び将来の展望について述べた。

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(6) FORTRAN 日本語処理の JIS 原案

西村恕彦 (農工大・工)

[内容梗概]

FORTRAN は 1 バイトの符号系を前提として設計されている。近年、2 バイト系の日本語データを扱う要求が強くなってきた。日本電子工業振興協会は、84 年度に電子協標準を作成し、ひきついで工業技術院から JIS 原案作成の委託を受けた。委員長は菅 忠義である。原案の原則は次のようなものである。

原始プログラムの表現は 1 バイト系とし、文字定数と注釈は多バイト系を許す。実行時の内部データに多バイト系の記憶列を許すが、1 バイト系との連結や写像は禁止する。外部ファイルの記録上の文字列は、1 バイト列と多バイト列の連結を許す。

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(7) COMMON LISP へのオブジェクト指向機能導入の動向

石田 享 (NTT)

井田昌之、内田智史 (青学大)

大久保清貴 (パナファコム)

岡本泰次 (富士通)、佐治信之 (日電)

湯浦克彦 (日立)、西田大治 (富士ゼロックス)

[内容梗概]

1984 年以来、米国 Common Lisp 委員会では、Common Lisp へのオブジェクト指向機能の導入を目標として議論が進められてきている。その間、標準化のプロポーザルとして Common Loops (Xerox), Object Lisp (LMI), Snyder (HP) による提案が提出された。Common Loops は種々のオブジェクトシステムを作成するのに必要な hook (基本機構) を提供しようとするものであるため、現在これを中心に議論が収束する方向にある。

本報告では、これまでの討論経過をふまえ、上記の 3 種のプロポーザルを今後の標準化に影響を与えと思われる Flavors の技術的な要点を紹介した。

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

(8) 項書換え言語 T

相場 亮 (慶大)、外山芳人 (NTT 通研)

井田哲雄 (理研)

[内容梗概]

コンビネータの書換え規則の集合をプログラムとする項書換え言語 T の概要を述べた。T は ①広汎なアルゴリズムを記述できる汎用言語であること、②効率のよい処理系が製作可能であること、③抽象的計算モデルである項書換えシステムのベースとなるリダクションエンジンであること、を目的とした関数型言語である。

(記号処理 研資料 86-36)
(プログラミング言語研資料 86-05)

◇ 第 39 回 マイクロコンピュータ研究会

{昭和 61 年 3 月 17 日(月)、於北海道大学工学部
106 教室、出席者 30 名}

(1) 自立移動ロボットの開発

恩田邦夫、松島緑朗、柳本耕志

大湯健介、青木由直 (北大・工)

[内容梗概]

開発中の車輪型移動ロボットについて、その機能目標、開発方針および現在までの進行状況を報告した。廊下の自立移動、エレベータへの乗降、オペレータとの音声対話を機能目標としている。現在までにロボットの駆動部とその制御システム、専用 LSI を利用した音声対話システムの一部が完成しており、これらのハードウェアならびに処理系について説明し、走行実験の結果などを報告した。

(マイクロコンピュータ研資料 86-39)

(2) 光学式二次元分布圧力センサシステムの開発

川嶋稔夫、中村庸郎、青木由直 (北大・工)

[内容梗概]

コンピュータトモグラフィの技術を応用した。光学式の触覚(圧覚)センサシステムを提案している。基本的原理は感圧膜中を通過する光の量をフォトラングスタアレイによって圧力分布の投影パターンとして検出し、それをコンピュータトモグラフィ技術により、2 次元分布に復元するというものである。その結果本方式は、センサの柔軟性、強度、素子の効率的利用などの面で従来のセンサにない優れた特徴を持っている。

(マイクロコンピュータ研資料 86-39)

(3) 毛筆漢字の生成と毛書システムの試作

時 崇 明、青木由直、恩田邦夫 (北大・工)

[内容梗概]

本論文では、運筆を行うソフトウェアに関する研究と、実際に毛筆を動かして字を書くハードウェアの構成の両方について研究を行っている。毛筆書体には、種々のものがあるが、これまでの研究では各々について経験的な骨格関数の選択や特徴パラメータの抽出が試みられていた。本論文では篆書体のような丸みを帯びた書体にも統一的に扱えるような特徴抽出アルゴリズムについても提案している。また実際に毛筆を用いているため、筆のやわらかさや紙との摩擦を考慮した、より人間に近い運筆方法が必要となり、これについても考察を行っている。最後に本システムを用いていくつかの書体の漢字を生成させた例を示すとともにその評価と検討を行っている。

(マイクロコンピュータ研資料 86-39)

(4) マイクロコンピュータ用液晶ディスプレイを用いた計算機ホログラフィ

石川貴之, 坂本雄児, 青木由直 (北大・工)

[内容梗概]

計算機プログラムの表示用媒体としてパーソナルコンピュータに用いられているドットマトリクス液晶ディスプレイを使用した。ホログラムの振幅位相分布を液晶の透過率分布として表示し、光学的再生のための媒体とする。これによってホログラムと計算機をオンライン的に結びつけることができるようになる。さらに、ホログラフィの動画像化の可能性について述べた。

(マイクロコンピュータ研資料 86-39)

◇ 第 31 回 設計自動化研究会

{昭和 61 年 3 月 18 日(火), 於機械振興会館 地下 3 階 2 号室, 出席者 30 名}

(1) MOS 論理回路のスイッチレベルシミュレータの開発

竹之上典昭, 古賀義亮 (防衛大)

[内容梗概]

MOS 論理回路をスイッチネットワークとして捉え論理をシミュレートするスイッチレベルシミュレーションが提案されている。しかし、スイッチレベルシミュレーションには MOS 論理回路をスイッチネットワークとして扱うための困難さがある。そのためにシミュレーションにおいて扱う論理値或は、トランジスタ・ノード等にレベル付けを行う等の手段を用いることが多い。本論では、論理値のレベル付けは行わずイベントを 3 つの状態により管理する方法で順序回路も扱えるシミュレータを開発し、MOS 論理回路を階層

的に記述する回路記述言語も併せて開発したので報告した。

(設計自動化研資料 86-31)

(2) 階層構造を用いたマスクデータ処理手法

小林裕一, 高島 誠, 小池三博 (東芝)

坂本信二 (東芝マイコンエンジニアリング)

[内容梗概]

LSI のマスクデータ処理 (MDP) を、レイアウトデータの階層構造を用いることにより高速化する手法と、これをサポートするシステムについて報告した。

MDP はレイアウトデータを展開しフラットレベルで処理を行う方法が一般的であるが、本手法では階層構造を保持したまま MDP を行い処理対象データを削減している。レイアウトデータへの特別な制限は設けていない。

また、本手法は、階層間処理を専用システムに集中できるため、既存のシステム体系へのインプリメントが容易に行える。

メモリ等の LSI へ適用し、好結果を得ている。

(設計自動化研資料 86-31)

(3) ハードウェアルータの一考察

緑川博子, 阿左美真一, 小山直和

石塚昭夫, 岩下正雄 (日電)

能登山裕樹 (日本電気技術情報システム開発)

河本達也 (日本電気テレコムシステム)

[内容梗概]

リング状に構成したデータフロー型プロセッサ ImPP 8 個とパソコンから成る小型かつ高速なハードウェアルータ POEM を構築した。始点終点並列探索、層並列処理を行うことにより処理量減少、処理並列性の向上を図り、256×256 プリント板データ、1024 本のピンペアの迷路法配線を 112 秒で行った。これは従来の迷路法を大型計算機で行った場合の約 5.8 倍の処理性能に匹敵する。

(設計自動化研資料 86-31)

(4) 力学モデルによるコンパクション

河西善夫, 藤重高志, 伊藤 誠 (山梨大・工)

[内容梗概]

シンボリックレイアウトにおいて効果的なコンパクションを実現するため「力」の概念を導入した力学的モデルによるコンパクション手法を開発した。本手法によって、今まで人手によってのみ可能だった配線パターンの変更および素子などの相対位置の変更を自動的に行えるようになった。本手法では、素子を「剛体」、配線を「揃断力」によって「折り曲げ可能な棒」と考え、力の伝播を取り扱うことによってジョブ挿入点お

よび移動素子を決定した。このように、直感的に理解しやすい手法で統一的にコンパクションをとらえることが可能となった。(設計自動化研資料 86-31)

(5) International Test Conference 1985 報告 須藤常太 (NTT 通研)

[内容梗概]

本会議は IEEE Computer Society 主催により、毎年 1 回秋に開かれている。今年は 11 月 19~21 日にフィラデルフィア郊外のホテルで開催された。参加登録者数は昨年 (1,400 人) より 13% 減の 1,220 人であった。不況のため、IBM, AT & T でさえ参加者を大幅に減らしたとのことである。国際会議とはいえ米国以外からの発表は少なく、総数 133 件のうち、米 116, 日 9, 欧 5, その他 3 であった。セッション数は 26 で、5 会場に分かれて発表が行われた。他にポスター・セッションが 1 つ設けられた。会議と並行して大規模な展示会が行われるのが ITC の特徴で、今回も 66 社が出品していた。

(設計自動化研資料 86-31)

◇ 第 16 回 数値解析研究会

{昭和 61 年 3 月 20 日 (木), 於機械振興会館 地下 3 階 9 号室, 出席者 30 名}

(1) 溶鉱炉に現われる自由境界問題に対する有限要素解析

張 国 豊 (筑波大・電子・情報)

[内容梗概]

溶鉱炉内のスラグと溶融した鉄の流れの問題を、2 次元の自由境界問題として定式化し、それに対して数値的な解析を行った。この問題では、各時刻ごとのスラグとメタルの速度ポテンシャルはそれぞれラプラス方程式の解として表わされ、また自由境界のスラグ液面及びスラグ・メタル界面の変化はそれぞれ運動学的境界条件に対応する微分方程式によって決定される。ここでは、ラプラス方程式の解法として有限要素法、境界の微分方程式の解法として後退オイラー法を用いた。ここに現われる連立 1 次方程式は前処理付き双対共役勾配法 (PBCG) で解いた。その結果、妥当な近似解が得られた。(数値解析研資料 86-16)

(2) 科学技術計算出力結果表示システムの開発

大山恵三子, 金野千里, 矢島章夫 (日立中研)

[内容梗概]

各種の数値シミュレーションの結果として出力される多次元数値データに対する有効な解析手段として、

解析結果の図形化・画像化をめざし、科学技術計算出力結果表示システム S-GRAF を開発した。S-GRAF は各種シミュレーション間の共用に応える数値マスタファイルとその格納・検索機能、及び、数値データの多次元グラフ化表示機能を提供する、サブルーチンパッケージである。表示機能では多次元物理量のカラー線画・面画・陰影図による作画ルーチンを有し、切断やスケーリング等の操作を具備する。

(数値解析研資料 86-16)

(3) ベクトル計算機による回路行列の高速求解法 下郡慎太郎, 鹿毛哲郎 (富士通研)

[内容梗概]

回路行列の求解を、最大限の並列性を引き出すことにより、ベクトル計算機上で高速化する方法を述べている。筆者等は、ベクトル計算機を用いて、回路解析プログラムを高速化する研究を行っている。回路解析では、行列 (連立一次方程式) 求解部分は、行列の非零要素がまばらで不規則なため、従来、高速化が困難であった。これに対し、LC 分解法の LU 分解・前進代入・後退代入の全過程について、行列のスパース性を利用して最適な計算順序を決定することにより、最大限の並列性を引き出した。本ベクトル化手法により、FACOM-VP 上で、スカラモードに対して約 7 倍、さらにベクトルコード生成をすることで約 10 倍の高速化を達成した。(数値解析研資料 86-16)

◇ 第 54 回 自然言語処理研究会

{昭和 61 年 3 月 28 日 (金), 於東京工業大学 中棟 3 号館 527 号室, 出席者 90 名}

(1) 西ドイツにおける自然言語処理の現状

—シュトゥットガルト大の研究を中心として—
横山晶一 (電総研)

[内容梗概]

1984 年 9 月より 1 年間、科学技術庁長期在外研究員としてシュトゥットガルト大学情報科学科に滞在した。当地では日独機械翻訳プロジェクト SEMSYN に参加した。本報告では、SEMSYN の概要と評価を述べるとともに、その際に生じた問題点を検討した。また、西ドイツの人工知能会議である GWAI-84 に参加する機会があったので、その簡単な内容について述べた。さらに、シュトゥットガルト大の他プロジェクトや、西ドイツ国内で筆者の見聞したプロジェクトについて簡単に紹介した。

(自然言語処理研資料 86-54)

(2) 多変量解析によるキーワードの自動抽出と 文献の自動分類

竹内晴彦 (製品科学研)
岩坪秀一 (大学入試センター)
西野博二 (筑波大)

【内容梗概】

統計的手法によるキーワードの自動抽出、及び判別分析を用いた文献の自動分類について報告した。本稿では、単語が特定の分野に集中して出現することを示す指標を新たに導入することにより、識別力の高いキーワードを抽出し、多変量解析の一手法である判別分析を適用することにより合理的な文献の分類を試みた。英文文献のアブストラクト 1,000 件を対象とした実験により、本法の有効性を確めた。

(自然言語処理研資料 86-54)

(3) 自然言語の分析による知識データ

田中康仁 (姫路短大), 吉田 将 (九大)

【内容梗概】

日本語文の中から知識データを抽出する方法について述べている。この研究では 5 つの方法によって知識データの抽出を行っている。

- 1) 4 文字漢字列の分割による方法
- 2) 4 文字漢字列で得られた 2 語の関係を逆転させて新しい関係を見つける方法
- 3) 助詞、助動詞を中心とした KWIC より機械的に抽出する方法
- 4) 3 文字漢字列の分割による方法
- 5) 慣用句による知識データの収集方法

これら知識データの具体的な利用方法、応用方法についても研究内容を述べている。

(自然言語処理研資料 86-54)

(4) ポータビリティを目指した自然言語インタ フェースの試作

松島利幸, 小室 睦, 小野山隆, 山本昌彦
(日立ソフトウェアエンジニアリング)

【内容梗概】

ポータビリティの高い自然言語インタフェースを実現するために、一つの意味解析手法と、それに基づいた自然言語作成システム kono NUS を試作した。kono NUS では、構文木を意味表現形に変換する写像として意味解析処理をとらえ、これを基本的な写像から構成するためのオペレータを導入した。また、kono NUS での意味解析は、オブジェクト指向型意味解析言語 kono NUL によって記述されている。

kono NUL では、「概念マッチング」を用いた強力なメッセージセレクトにより、記述性を高めている。

(自然言語処理研資料 86-54)

(5) 意味記述用言語 SRL/O の設計と DCKR

奥村 学, 高倉 伸, 田中穂積 (東工大・工)

【内容梗概】

本研究室で開発された DCKR は、ホーン節形式をベースにした知識表現形式である。この DCKR を自然言語の意味処理に応用すると、辞書項目の柔軟な意味記述が可能になるとともに、それを利用した意味処理プログラムの中核が Prolog に組み込みの機能で代用可能になる。しかし、DCKR を応用したこの辞書の記述形式を用いて意味解析を行うと、意味的に異常な文をも正常な文として受理してしまう。本稿では、この問題点を説明し、それに対する解決策について述べた。また、DCKR を辞書記述の機械語 レベルの形式として考え、ユーザが辞書項目を記述する辞書記述用の高水準言語 SRL/O を設計したので、それについても述べた。

(自然言語処理研資料 86-54)

(6) 機械部品組立てマニュアル文理解の試み

石川智浩, 安部憲広, 辻 三郎 (阪大・基礎工)

【内容梗概】

英語で書かれた組立ての説明文と、部品の三次元形状モデルを用いて動作のシミュレーションを行いながら、動作の解釈を調べ、組立て手順を生成するシステムについて述べた。

構文解析は、Hornby の動詞文型を利用し、動詞から、用いられる動詞文型を予測して、高速化を行った。動作の解釈は、説明文それぞれを、組立てのサブゴールとみなして、言語で省略された情報を補い、一軸方向の衝突検出を行って組立て手順を生成した。出来た組立て部品の構成部品間の接続関係を調べて、得た手順が正しいかを評価し、次に手順の構造化を行い、それが有益であることを示した。

(自然言語処理研資料 86-54)

(7) タプル論理による日本語文の意味表現と Syllogism (三段論法) による推論法

森田憲一, 江村恵里子 (阪大・基礎工)

【内容梗概】

タプル論理 (TL) は、述語論理のように文を述語 (真理値関数) と引数 (個体) に分けずに、文のすべての要素を数学的に同質な項目とみなす体系であり、文の意味をそれら項目の組 (タプル) として、自然か

つ論理的にも厳密に表現することができる。ここでは TL に基づく日本語文の意味表現法と推論法の可能性を探るために、「文タプル」と呼ぶ形式によって日本語文の意味を表現し、Aristotle の Syllogism に基づいて推論を行う方法を考察した。文タプルは原文に非常に近い表現形式で、特別な論理記号は含まない。特に、Lukasiewicz による Syllogism の妥当性判定法を文タプルに適用する方法とその拡張法を示した。これに基づく推論システムも試作した。

(自然言語処理研資料 86-54)

(8) 英語文章の大意生成

内海功朗, 重永 実 (山梨大・工)

〔内容梗概〕

簡潔で論理的な英語文章の大意を自動的に求める方法が記されている。この方法は文脈を木構造で表わしたものを基にしている。二文間の接続関係は文の構成要素の類似や相違点などを調べたり、推論規則及びスクリプトなどを使ったりして求められ、二分木で表わされる。木構造は二分木を拡張して構成される。各接続関係に二文の内どちらがより重要であることを示す重

みを設けておく。大意は木構造の根から接続関係の重みに従って枝を辿り、到達した葉に相当する文を取り出し、それらの文を接続関係の意味にあてはまる接続詞でつなぐことによって作られる。

(自然言語処理研資料 86-54)

(9) エスペラントを仲介言語とする機械翻訳

牧野 悟, 平田 満, 勝守 寛 (中部大・工)

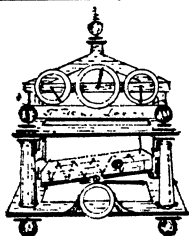
〔内容梗概〕

人工的国际補助語であるエスペラントから日本語に翻訳するプログラムを LISP を使って作成した。通常任意に選んだエスペラント文は、文法的に規則正しく、語彙的に曖昧さがなく、また決定論的なので、解析木を容易に得ることができる。こうして機械翻訳システムを作るのにエスペラントは仲介言語としてきわめて有用であると思われる。

訳文例として、いくつかの解析木の出力例とともに平叙文、疑問文、感嘆文のほか、重大と複文の例、倒置文の例などを示した。

(自然言語処理研資料 86-54)

シンポジウム報告



◇ 第 27 回 プログラミング・シンポジウム

第 27 回プログラミング・シンポジウムが、1986 年 1 月 8 日～10 日まで箱根ホテル小涌園にて開催された。約 210 名の参加を集めて盛況であった。

昨年 6 月末、本シンポジウムの「生みの親」である山内二郎先生が亡くなられたわずか 15 月後に、委員長である高橋秀俊先生が永眠された。謹んでご冥福をお祈りしたい。山内、高橋両先生のお志を継ぎ、新委員長には、東大の米田信夫先生が就任された。

発表は、一般発表 18 件、招待講演 1 件のほか、夏のシンポジウム（「プログラム合成・変換・再利用」）、若手の会（神戸）、GPCC、山内記念会の 4 件の報告である。招待講演は、東京女子大の水谷静夫先生が「川柳が来て計算機弱るなり」と題し、講演をおこなったが、川柳を計算機に理解させることの難しさについてであり、人間でも難しいとの声が会場からあった。

一般講演では、Prolog 関係／エキスパート関係 3 件、エディタ／ワープロ関係 5 件、プログラミング言語 3 件、絵・音楽関係 2 件、プログラム開発／ドキュメント 2 件、そのほか 3 件という内訳である。発表の

仕方、山内賞の対象になることを反映してか、発表方法に工夫がみられるようになった。また、会場からも熱心な討論が行われた。

夕食後は、例年通りマイコンデモや夜の自由討論が行われた。夜の自由討論は、第 1 日目が「ワークステーション」、「ワープロ入力」、「GPCC（ゲームとパズル）」、第 2 日目が「プロトタイピング」、「ネットワーク」、「論理の未来とコンピュータ」と題し、各テーマごとに熱の籠った討論が続いていた。

昨年度新設の山内賞の第 1 回表彰の報告が、山内記念会から行われた。受賞者は次の通り。

山内業績賞：高橋秀俊・石橋善弘，“行列式その他の exact calculation に対する新方式”（第 1 回プログラミング・シンポジウム）

山内奨励賞（創意の部）：金田 泰，“スーパーコンピュータによる Prolog の高速実行”（第 26 回プログラミング・シンポジウム）

山内奨励賞（表現の部）：中島秀之，“超時空プログラミングシステム Uranus”（第 26 回プログラミング・シンポジウム）

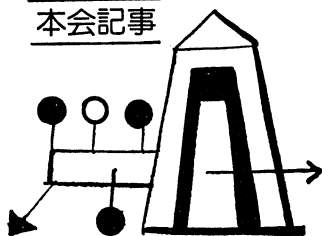
山内業績賞は、過去の発表分から、また、奨励賞は、昨年度の発表分からそれぞれ選考されたものである。

今年度の GPCC の題は、Calculation と決った。

今回のプログラミング・シンポジウムは 1987 年 1 月 7 日（水）～1 月 9 日（金）箱根ホテル小涌園、また、夏のシンポジウムは「ヒューマンフレンドリなシステム」（仮題）、若手の会は筑波という予定である。

（日立・中研 安村通晃）

本会記事



第 297 回 理事会

日 時 昭和 61 年 3 月 20 日 (木) 17:30~20:40
 会 場 機械振興会館 5 階 5 S-1 号室
 出席者 尾関会長, 榎本副会長, 澤田, 関(弘), 鶴田
 棟上, 中島, 新井, 木村, 小林, 島崎, 関(栄)
 山田各理事, 石井監事
 (事務局) 坂元事務局長, 桜間, 渡辺各次長
 田原前次長

議 事

1. 前回議事録を確認した。

2. 総務関係

2.1 61 年 2 月期に理事会他各種委員会を 92 回 (うち規格関係 54 回) 開いた旨報告があった。

2.2 会員状況報告 (3 月 19 日現在)

正 会 員	22,082(名)	} 22,960(名)
学 生 会 員	869	
海 外 会 員	9	
賛助会員	316(社) (434口)	

2.3 昭和 61 年 1 月期の会計収支は, 予算額対比で収入 70%, 支出 77% で, 月末資金残高ともに例年どおりに推移していることを確認した。

2.4 第 27 回通常総会について

5 月 20 日開催予定の 61 年度通常総会提出議題につき次の通り説明があり, 了承された。

(1) 昭和 61 年度役員改選について

このたび行われた昭和 61 年度役員選挙の開票結果, 新役員を次の通り承認決定した。

副会長: 浦 昭二, 監事: 池野信一

理事(業務)教育: 石田晴久, 研究: 植村俊亮, 製造・販売(A): 名内泰蔵, 製造・販売(B): 藤枝純教, 利用: 福井隆夫

理事(編集)教育/研究: 片山卓也, 廣瀬 健, 分野不問: 立花佑介, 高根宏士

(2) 昭和 60 年度決算について

昭和 60 年度の決算見とおしとして, 約 1 千万円のプラスが予測される旨報告があった。

(3) 功績賞について

去る 2 月 26 日に第 2 回功績賞委員会を開き, 規程にもとづき, 小林大祐と穂坂衛の両君を選定した旨, 同

候補者調書および業績書を添えて説明があり, 異議なく承認された。

また, 昨年逝去の元岡教授に顕功賞 (仮称) 贈呈の提案があり, 審議することが了承された。

2.5 評議員の選出について

選出規程(案)につき説明があり, 「1. 評議員の役目」の表現を適切に改め, 覚書とすることとした。

2.6 去る 2 月 20 日に開かれた昭和 60 年度支部長会議での要望事項について, 説明があった。支部総会には, 理事ができるだけ出席することとした。

2.7 出版について

オーム社から提案の次の出版計画 2 案件について検討することとした。

(i) 情報処理ポケットブック

(ii) 情報・通信系大学 (教科書) 講座

2.8 事務所の拡張について

すでに手狭になった事務所を拡張するために, 事務所検討委員会 (委員長 松尾副会長) を設け, 至急に移動・拡張案を作成することとした。

3. 機関誌関係

3.1 学会誌編集委員会

去る 3 月 11 日開催の第 101 回編集委員会で, 「情報処理」27 巻 4 号~6 号の編集をすすめ, あわせて来年度の編集委員の改選につき審議した旨の説明があり, 了承された。

3.2 論文誌編集委員会

本日開かれた編集委員会で, 投稿論文の査読状況ならびに論文誌 27 巻 6 号の掲載論文の決定などにつき審議した旨説明があり, 了承された。

また, 会長諮問事項に対する論文誌関係の措置について, 本年からの月刊化にともなう体裁, 査読陣の強化, 購読者数の増強および今後の課題として事務局の強化等の要望につき説明があった。

3.3 欧文誌編集委員会

全国大会最終日の 3 月 13 日に開かれた第 75 回編集委員会で, Vol. 9, No. 1 の目次(案)を決定し, あわせて No. 2 向けの論文査読をすすめた。

なお, 英文アドバイザー, クリーブランド女史が帰米のため退任するので, 5 月総会で感謝状を贈りたい旨の説明があり, 了承された。

4. 事業関係

4.1 昭和 61 年前期第 32 回全国大会について

去る 3 月 11~13 日に学習院大学で開かれ, これまで最高の 3,060 名の参加を得て盛会のうち無事終了した旨説明があった。

4.2 昭和 61 年度電気・情報関連学会連合大会について

去る 3 月 7 日に電気学会で開かれた企画委員会 (第 2 回)・部会連合会 (第 1 回)で, 会場 (中央大学理工

学部), 特別講演, シンポジウム, パネル討論などにつき予定どおり順調に審議, 検討をすすめた旨の説明があり, 了承された。

4.3 シンポジウム等 4 件の共催, 協賛を承認した。

5. 調査研究関係

5.1 去る 3 月 18 日に「調査研究活動促進策検討委員会」を開き, とくにシンポジウムの一層の活性化のための運営, 経費につき自由な意見を出し合って検討した旨説明があった。

5.2 去る 2 月 28 日に「規格委員会将来計画実行案作成委員会」を開き, 規格活動分担金の大幅値上げにともなう「規格委員会活動についての説明会」を, 来る 3 月 31 日に開催し, メインフレーム 9 社の出席を願うこととした旨説明があり, 了承された。

5.3 次のシンポジウムの報告および計画について説明があり, 了承された。

(i) 終了報告: グラフィクスと CAD (60 年 12 月 4~6 日), データベース・システム (12 月 10~11 日), オペレーティング・システム (12 月 17~18 日)

(ii) 開催計画: 「インタオペラブル・ネットワーク」(61 年 11 月 4 日)

6. 国際関係

6.1 国際活動を本格化するため, 国際委員会の新設, 財政基盤の確立および 61 年度以降の予算規模につき説明があり, あわせて国際活動関連規約類の見直しを行うこととした。

6.2 30 周年記念事業のひとつとして, 国際会議開催の可否を準備委員会を設け検討することとした。

6.3 IFIP, IEEE CS からの依頼

海外 2 団体からの次の要請あるいは依頼を了承した。

(1) IFIP 歴史委員会 (Zemanek 教授) に日本代表として高橋(茂)教授を推せんしたので, 「歴史特別委員会」を来年度も存続する。

(2) IEEE CS から (i) ACM の Joint Membership に準じた Affiliation, (ii) Tutorial あるいは Conference の協賛, 共催をして欲しい旨の提案は, 今後 IEEE と協議する。

7. その他

7.1 日本学術会議の情報工学研究連絡委員会(委員長 猪瀬博) から, 学術会議研究連絡委員会と電気・情報関連の 5 学会との懇談会を, 電気, 電子, 情報 3 学会の持ち廻りで, 年 1 回程度開催したい旨の提案を了承した。

第 32 回 全国大会報告

大会運営委員長 榎本 肇

今回の情報処理学会全国大会は昭和 61 年 3 月 11 日(火)より 13 日(木)までの 3 日間学習院大学で開催された。一般講演として論文発表 1054 件(セッション数 119)が 21 の会場で行われたほかに, 以下の講演およびパネル討論が行われた。

特別講演 脳の情報処理 伊藤正男(東大)

招待講演 第 5 世代の現状と展望

淵 一博(ICOT)

パネル討論 OA に要求される新しい情報処理技術(司会) 森 健一, 河田 勉(東芝), 木下研作(NTT), 高橋三郎(本田技研), 宮崎收兄(沖電気)

ソフトウェア流通の現状と課題

(司会) 石原壽夫(ソフトウェア流通促進センター), 清水康男(富士写真フイルム), 炭電豊治(IPA), 孫正義(日本ソフトバンク), 藤本和郎(日進ソフトウェア)

参加人員は, 過去最高の 3060 名で, 前回大会(東京電機大学)より 510 名, 前々回(工学院大学)より 125 名の増となっている。

一般講演の件数は前回大会より 186 件の増, 前々回とほぼ同じである。発表論文を分野別ならびに所属別にみると表(次頁)のようになっている。

1) 分野別では, 「パターン処理および人工知能」, 「プログラミング言語およびソフトウェア工学」関係が多い傾向は変わらないが, 今回は特に「パターン処理および人工知能」の多いのが目立つ(249 件 23%)。両者を合わせると 465 件(44%)となる。

2) 所属別では, メーカー関係が多い傾向は変わらない。前回および前々回の件数をみると, 秋の大会では学校関係の発表が減る傾向があるといえそうである。そのことは分野別の「基礎」や「数値計算」の傾向にも影響している。

特別講演のあとで学術奨励賞の表彰が行われたが, 受賞者を囲み会長, 副会長をはじめ関係理事と昼食を共にしながら歓談した。

最後に本大会において招待講演, 特別講演あるいはパネル討論の講演者, ならびに 119 名にものぼった一般講演セッションの座長各位に厚くお礼を申しあげる。また, 今回の全国大会で大変お世話になった学習院大学の方々, プログラム編成小委員会および学会事務局の方々のご尽力に感謝の意を表する次第である。

分野別発表件数	今回	前回	前々回
パターン処理および人工知能	249	(201	205)
プログラミング言語およびソフトウェア工学	216	(170	224)
アーキテクチャおよびハードウェア	117	(94	115)
技術、産業への応用	104	(104	117)
データベース	76	(62	78)
自然言語処理	65	(48	70)
オフィスシステム	65	(43	56)
ネットワークおよび分散処理	53	(68	69)
オペレーティングシステム	33	(37	47)
数値計算	24	(10	29)
基 礎	18	(9	19)
社会システムへの応用	17	(13	29)
情報システム	11	(—	—)
ニューメディア	6	(9	—)
(計)	1,054	(868	1,058)

所属別発表件数			
学 校 関 係	392	(296	394)
メーカ関係	469	(416	452)
研究所関係	101	(85	132)
そ の 他	92	(71	80)
(計)	1,054	(868	1,058)

機関誌編集委員会

○第102回 学会誌編集委員会

61年4月11日(金) 18:30~20:10に機械振興会館6階 65号室で開いた。

(出席者) 中島、関副委員長

(FWG) 新田、岩元各委員

(HWG) 大森、喜連川、辻村、相馬、松下各委員

(SWG) 角田、小川、石畑、永田、居原田各委員

(AWG) 加藤、溝口、津田、小西、宇野、香取各委員

議 事

1. 前回議事録を確認した。
2. 学会誌目次(案)により、つぎの各号の編集発行状況を確認した。
(1) 27巻5号(普通号)
(2) 27巻6号(特集号:メモリ)
(3) 27巻7号(普通号)
3. 各WGから「解説・講座等管理表」により、詳細な説明があった。
4. 61年度編集委員会委員を同構成表により、最終確認した。ただし、地方委員は、できるだけ早く追加決定する。

○第95回 論文誌編集委員会

61年4月17日(木) 14:30~17:10に機械振興会館6階花の間で開いた。

(出席者) 棟上委員長、川戸、斎藤、中所、原田、村井、村岡各委員

議 事

1. 新投稿 採録 不採録
24 9 4
2. 27巻7号の目次(案)を作成した。
3. 投稿論文の採録、不採録を審議決定した。
4. 問題論文について、担当委員の処置案、及び査読報告により検討した。
5. 査読全体の進行状況を確認し、督促の必要なものについては、事務局及び割当委員により督促することとした。
6. 新査読委員候補について審議した。
7. 53年以降~61年3月末までに、査読件数10件以上の査読委員に記念品を贈ることとなった。

各種委員会 (1986年3月21日~4月20日)

○3月28日(金) 自然言語処理研究会・連絡会
プログラミング・シンポジウム幹事会

○4月2日(水) 調査研究活動促進策検討委員会

○4月4日(金) 規格委員会将来計画実行案作成委員会
国際講演会

○4月7日(月) 情報学基礎連絡会
VLDB PC

○4月9日(水) 事務所検討委員会

○4月10日(木) 教育調査準備委員会

○4月11日(金) VLDB 実行委員会
オペレーティング・システム連絡会

○4月15日(火) 事務所検討委員会
CAD Workshop 実行委員会
設計自動化連絡会
情報システム連絡会

プロトタイピングと要求定義シンポジウムパネル打合せ

○4月16日(水) プロトタイピングと要求定義シンポジウム
理事連絡会

○4月17日(木) プロトタイピングと要求定義シンポジウム

[規格関係委員会]

○3月24日(月) SC15, SC18/WG1,
SC23/SG3

- 3 月 25 日 (火) SC 6/WG 2, SC 21/WG 3,
SC 21/WG 5
- 3 月 26 日 (水) SC 6/WG 1, SC 21/WG 6,
SC 23/SG 2・3 合同 Ad hoc
- 3 月 27 日 (木) SC 6, SC 21/WG 4
- 3 月 28 日 (金) 規格委員会幹事会, SC 13,
SC 18/WG 3・5 合同,
OS インタフェース
- 3 月 31 日 (月) SC 2, SC 21
- 4 月 1 日 (火) SC 21/WG 3 Ad hoc
- 4 月 2 日 (水) LAN JIS/WG 2
- 4 月 3 日 (木) SC 1/WG 6
- 4 月 4 日 (金) SC 21/WG 2, COBOL JIS
- 4 月 8 日 (火) SC 18 Ad hoc, SC 20,
SC 21/WG 1, SC 22/Ada WG
- 4 月 9 日 (水) SC 6/WG 1, SC 21/WG 6
Ad hoc, SC 21/WG 6
- 4 月 10 日 (木) SC 18/WG 4, SC 22/FORTRAN/
WG, SC 23/SG 2・3 合同 Ad
hoc
- 4 月 11 日 (金) SC 15, SC 22, SC 23, SC 23/SG 5
- 4 月 16 日 (水) SC 6/WG 1, SC 18/WG 1
- 4 月 17 日 (木) SC 7
- 4 月 18 日 (金) 規格委員会, SC 11, SC 11/FD-
WG, SC 18/WG 3・5 合同, SC 23/
SG 1

新 規 入 会 者

昭和 61 年 4 月の理事会で入会を承認された方々は次のとおりです (会員番号, 敬称略)。

【正会員】 浅野福吉, 浅野雅代, 阿部栄二, 天野貴司, 池田恵一, 池田紳一, 井澤 忠, 石田浩一, 石田正浩, 石塚正令, 石飛親人, 市川 浩, 市村 純, 伊藤哲也, 稲毛 順, 伊吹 誠, 岩崎一也, 内田博志, 大沢英一, 太田育友, 大村哲央, 岡 満徳, 岡部 仁, 岡村邦彦, 小川 洋, 奥平雅子, 奥谷守男, 恩田良以加藤隆三, 金田和文, 神代誠一郎, 上條龍一, 川口誠人, 川下隆史, 北嶋克寛, 久保木孝明, 小鍛冶一, 佐々木誠一, 小林富士男, 近藤健示, 酒井 充, 笹原健司, 佐藤真一, 佐藤 巧, 佐藤正明, 潮崎淳一, 塩山忠義, 柴山次郎, 澁谷利行, 嶋津恵子, 清水信昭, 下條満美, 菅沼弘明, 杉田有三, 杉原英文, 高木照夫, 高須清孝, 高取則彦, 高橋 肇, 竹田 博, 田中公隆, 田中利二, 田中 稔, 田中理恵, 田辺和一, 谷口祐治, 田端正久, 田村幸子, 堤竹秀行, 出口文彦, 戸田光彦, 富永 章, 土井宏之, 苗村水戸夫, 中井一弘, 中井教詞, 中澤拓一郎, 中山未佐子, 永倉正洋, 新妻潤一, 西塚 晃, 西村雄二, 能上慎也, 服部義和, 早川秀夫, 原田和彦, 原田永康, 春遍雀来, 平田廣則, 広瀬昌紀

広田克彦, 福島邦彦, 藤井研一, 藤井 智, 藤原正明, 古谷博史, 堀 則光, 舩田通憲, 松永圭子, 真野民男, 三矢直城, 箕浦光春, 宮下喜和, 向井一成, 牟田計作, 村越修平, 村重邦男, 村田 洋, 村松芳男, 室田定則, 茂木一男, 森 和彦, 森 軍平, 森 重雄, 森 重樹, 森田雅弘, 森松耕一, 矢沢志雄作, 山北リエ, 山際秀紀, 山口博史, 山田 茂, 吉田泰明, 若松修一, 渡辺和博, 和田行平, 舟生幸雄, 大場みち子, 小出信介, 高橋 貢, 筒井城二, 花房昭彦, 村松昭男, 新井祥一, 五十嵐力, 石堂和夫, 井谷正彦, 田中敬一, 永易秀生, 藤野昭雄, 松浦照弥, 宮崎信行, 森 好男, 永井 勇, 川崎俊暁, 佐藤明与志, 猿橋泰孝, 中沢重雄, 宮部真一, 橋本幸子, 菅原 制, 新井博昭, 竹ノ下繁行, 宮野敏昭, 井川義孝, 植村武彦, 熊原光男, 甲田修策, 河野 修, 小林浩一, 酒井祥雄, 関 孝夫, 幡野正三, 平井周作, 広田宏二, 溝口喜弘, 山川恵也, 松隈良一, 石川敬治, 大沢裕之, 斎藤 努, 酒井嗣泰, 高柳典史, 館 利文, 松波功治, 青屋浩一, 池田 茂, 石丸勝敏, 城 耕治, 龍澤 昇, 萩原正則, 橋本 剛, 東野 晃, 藤田敏男, 山本修三, 浅葉礼子, 岡部浩行, 笠原俊哉, 土屋光夫, 寺下秀和, 長沢秋人, 永田益道, 藤田孝博, 青木孝之, 秋庭好孝, 阿部健一, 有沢健治, 栗津茂樹, 飯塚 稔, 石川 格, 石田耕一, 伊藤明彦, 伊藤 聡, 伊藤 努, 今橋正彦, 井村佳弘, 入江和美, 岩永政也, 岩本邦宣, 上田敏博, 海野智義, 大木瀧夫, 大久保雅一, 大坂 一, 太田義一, 大竹一夫, 大原広哉, 岡田昇, 岡本隆司, 小川 司, 奥井健之, 奥矢 淳, 小熊猛, 小野哲雄, 小野田幸子, 渡橋 靖, 梶谷雄治, 葛山善基, 加納尚之, 上西時司, 亀井正一, 川島 正, 川辺治之, 河村 薫, 菅 勝彦, 北川高昭, 北村正亟, 木村純治, 喜屋武盛基, 桐井克二, 工藤隆良, 久保紳, 黒川伸二, 黒河久男, 小山剛弘, 小山隆文, 近藤幾雄, 近藤孝雄, 郷原正好, 五反田博, 斉藤 剛, 坂元千代美, 作間哲夫, 笹尾 勤, 佐々木幹夫, 佐野謹一郎, 志井田孝, 司馬照夫, 嶋津直昭, 清水国彦, 東海林健二, 白石 健, 城 正彦, 杉町信行, 鈴木正人, 鈴木光宏, 鈴木良宏, 相馬廣昭, 曾我正信, 曾根至朗, 曾根光男, 高岡良行, 高橋洋海, 武田亘明, 武田行雄, 多田和夫, 忠津修二, 立川文夫, 田中二郎, 田中幸雄, 谷 俊行, 玉置 武, 辻村千春, 綱川 潔, 恒川 智, 角崎嘉男, 中島敏彦, 中村 弘, 中村昌毅, 中村 靖, 中山 要, 永井重敏, 長坂武彦, 永原裕一, 成川宣孝, 成田和生, 西川幸伸, 西村恒雄, 西村雅樹, 西山研司, 畠山耕治, 蜂谷聖一, 浜田結城, 羽山 博, 原 昌三, 針生伸一, ハワース・ポール, 平原 修, 平峰正信, 廣川紀夫, 藤井 亮, 藤崎利孝, 藤田幸司, 藤田康雄, 藤野誠治, 藤本仁史, 星加 理, 保科 剛, 細川富生, 堀川正昭, 本田英夫, 松岡春治, 間藤隆一, 三上信行

水岡靖司, 光石知國, 宮本克則, 宗像善吉, 村上元慶
村山 登, 森 和明, 森 博, 柳瀬龍郎, 矢部 博
山田和美, 山本英次郎, 山本浩一郎, 山本裕一, 横光
克佳, 吉田邦夫, 依田 透, 脇田敏裕, 渡邊次郎, 和
田一彦, 泉田正則, 植木敏彦, 芳野秀明, 中尾 寛,
佐々木利一郎, 森田雄三, 内田政明, 竹内良信, 菊地
哲男, 鈴木秀美, 寺田克則, 伏貫孝義, 松嶋璋幸, 渡
邊 実, 塩田慶一, 森 芳弘, 谷 保宏. (以上 361 名)

【学生会員】 大喜多三重, 菅野正嗣, 中井秀司, 石
川文男, 鎌田 実, 許 炎, 黒岩邦博, 谷村佳幸,
田原潤一, 筒井博史, 鶴田英世, 中島康彦, 野口幸子
花田英輔, 浜田広児, 松迫官男, 村田耕一, 門馬 弘
山田雅浩, 青山憲正, 秋葉澄伸, 秋山 功, 網谷勝俊
荒井秀明, 荒川 豊, 石田宏治, 稲住 仁, 今井達也
内田 剛, 遠藤俊雄, 大塚誠二, 大森康正, 小田辰夫
籠 浩明, 河口万由香, 窪田 誠, 倉橋裕紀, 黒岩眞
吾, 小畑精吾, 坂尾秀樹, 佐々木 泰, 佐藤 学, 塩
内正利, 柴田日出夫, 杉山広幸, 薛 淑 津, 銭 亮美
ソムジャリー・ブリーヤノン, 武井伸之, 田沢仁浩,
田村浩三, 譚 立 朝, チャンノンタイ・コーシン, 波
塚義幸, 西 明 美, 納富一宏, 萩原 孝, 平島 宗,
牧野光則, 松尾賢二, 松尾泰伸, 水井晶子, 向田康裕
村田浩樹, 山田 篤, 山名早人, 楊 志 明, 李 殷 碩.

(以上 68 名)

採 録 原 稿

情報処理学会論文誌

昭和 61 年 4 月の論文誌編集委員会では採録された論文は次のとおりです (カッコ内は寄稿年月日).

- ▷ 鏐坂恒夫, 阿草清滋, 大野 豊: ソフトウェア設計
自動化のための仕様記述言語 F (59. 6. 18)
- ▷ 小泉 忍: Ada における汎用体の実行プログラム
共用化方式 (59. 8. 9)
- ▷ 橋本正明: EAR モデルに基づく情報構造記述を用
いたプログラム仕様記述法 PSDM (60. 5. 23)
- ▷ 佐賀井重雄, 伏見正則: Good Lattice Points の計
算法について (60. 7. 3)
- ▷ 中嶋正之, 安居院猛, 春松光男: 高速道路における
先行車の同定と追跡に関する検討 (60. 7. 30)
- ▷ 林 照峯, 畠山一実, 森脇 郁: 論理 LSI 用ディ
レイ・テスト生成システム (60. 8. 7)
- ▷ 山本米雄, 尾崎圭司, 東條 隆, 坂本明雄, 川上
博: パーソナルコンピュータによるカリキュラム相
談システム (60. 10. 3)
- ▷ 竹之上典昭, 古賀義亮: 並列 MOS 論理シュミレー
ションの回路記述とそのコンパイラについて
(60. 10. 24)

<ショートノート>

- ▷ 長島 忍: 球面投影による多面体の内外判定方法
(60. 8. 23)

学会おちこち



「山内先生 人と業績」が、
このたび事務局に寄贈されてき
ました。中路幸謙氏を委員長と
した追悼集刊行委員の皆さんの
努力で昨年末に発行された本
です。

この追悼集は、序に代る写真集と、業績の部と、
「人を語る」思い出集の三つからなり立っています。
写真集では、2才10カ月の赤ん坊に始まり、府立四中、
一高、東大、電気試験所、新婚時代、……最後の病院
などの写真が一杯出ています。業績の部では、照明、
計測工学、品質管理、情報処理、管理工学などに分
け、先生の学究史を詳しく述べており、最後は、90
名近くの多士済々の方がたの追悼集となっています。

先生がなくなって2年余を過ぎ、亡くなられた時の
感傷を一応乗り越えた現在、この追悼集を通して、先
生の人と業績を知るという以上に、本学会第3代の会
長もされた先生の長い人生と幅広い業績を通して、情
報処理という学問の誕生と発展の生きた歴史書のように
も見えてきます。

こうした山内先生のお人柄と業績を偲んだこの追悼
集も、非売品なので目にとまる機会が少ないかもしれ
ません。先生個人の追悼集という枠を越えて、本学会
の歴史と社会での役割をあらためて考えてみるのには有
益な本であると思われますので、紹介させていただき
ました。なお、若干の残部を山内記念会 (担当: 東大
情報処理教育センター川合慧氏) が保管しています。
興味のある方はご連絡下さい。

(学会誌編集委員 永田 守男)

昭和 60 年度役員

会 長	尾関雅則
副 会 長	榎本 肇 松尾士郎
先 任 理 事	澤田正方 澁谷多喜夫 関 弘 鶴田清治 棟上昭男 富永英義 中島正志 福村晃夫 三上 徹
後 任 理 事	新井克彦 木村 泉 小林 亮 島崎恭一 関栄四郎 中田育男 堀越 彌 山田郁夫
監 事	石井康雄 高島堅助
支 部 長	西田富士夫 (関西), 野口正一 (東北) 吉田良教 (九州), 楠 菊信 (中部) 永田邦一 (北海道) 中前栄八郎 (中国四国)

(アプリケーション分野)

加藤重信	槻木公一	石塚 満
宇野 榮	小澤 彌	香取和之
小西和憲	四条忠雄	塚本享治
津田順司	中島健造	中村英夫
長谷部紀元	八田孝夫	服部武司
松浦卓丈	溝口文雄	保原 信
*吉田雄二		

文献ニュース小委員会

委 員 長	島田俊夫
副 委 員 長	石畑 清
委 員	浅見 徹 飯島純一 上原三八 *地方委員
	上森 明 大淵竜太郎 勝野裕文
	壁谷喜義 坂上勝彦 佐藤和洋
	寺野隆雄 中崎良成 西島政信
	新田克己 野寺 隆 久野 靖
	堀 浩一 松方 純 松本 勉
	吉村 晋 *原口 誠 *松田秀雄
	*桃内佳雄 *吉川正俊

学会誌編集委員会

委 員 長	澁谷多喜夫
副 委 員 長	小林 亮 関栄四郎 中島正志
委 員	(基礎・理論分野)
*地方委員	小山謙二 新田義彦 伊藤哲郎 岩元莞二 上野晴樹 片山卓也 後藤滋樹 佐藤泰介 田辺國士 中森真理雄 福永光一 渡辺 治 *上林弥彦 *丸岡 章
	(ソフトウェア分野)
	藤崎哲之助 角田博保 石畑 清 居原田邦男 小川貴英 国立 勉 黒川利明 佐々政孝 棚倉由行 永田守男 中村史朗 藤林信也 二木厚吉 山田眞市 *萩原兼一
	(ハードウェア分野)
	大森健児 島田俊夫 加治佐清光 河辺 峻 喜連川優 佐藤 誠 鈴木健二 相馬行雄 谷 公夫 辻村篤彦 東田正信 前田 明 松下浩明 *金田悠紀夫 *安浦寛人

論文誌編集委員会

委 員 長	棟上昭男
副 委 員 長	堀越 彌
委 員	小川英光 川合 慧 河田 勉 川戸信明 斉藤信男 中所武司 西川清史 野下浩平 野村浩郷 原田紀夫 村井真一 村岡洋一

欧文誌編集委員会

前 委 員 長	高村眞司
委 員 長	福村晃夫
副 委 員 長	木村 泉
委 員	雨宮真人 井上博允 牛島照夫 *アドバイザー・ テクニカル・ ライティング
	金子豊久 志村正道 田畑孝一 土居範久 西垣 通 西川清史 箱崎勝也 藤村是明 益田隆司 米澤明憲 和田英一
	*J. C. パーストン *L. クリーブランド